

災害時の自主防災活動

Local Voluntary Disaster Management Action During Disasters



大規模災害では、消防や警察、行政の人員が絶対的に足りなくなる。自主防災組織は、情報収集・伝達、被災状況の把握、初期消火、救出・救護、避難誘導など行政に代わりさまざまな活動を行う。また、避難所利用者と協力しながら、避難所運営支援や地域の防犯、在宅被災者の支援などの役割を担う。

時系列による地震災害時の活動

	災害時の状況	自主防災組織に期待される活動・役割
発生前	 災害発生 〈災害発生直後〉	<ul style="list-style-type: none">○防災計画の策定○防災知識の普及○防災訓練の実施○資機材などの整備○災害危険箇所、避難行動要支援者の把握など
発生直後		<ul style="list-style-type: none">○自身の家族の安全確保○近隣で助け合い (出火防止、初期消火、救助など)○津波からの迅速な避難誘導
数時間後	地域で救援活動に当たる人も含めて、大部分の人が被災者であり、生命の危機・生活環境等の破壊に対し、自助と地域住民の共助が中心となる。 〈災害発生から数日間〉	<ul style="list-style-type: none">○安否や被害についての情報収集○初期消火活動○救出活動○負傷者の手当・搬送○住民の避難誘導活動○避難行動要支援者の避難支援
数日後	初動対応となる消火、避難、救出・救護、給食・給水などを実施する時期となる。また外部からさまざまな支援活動、人材、支援物資が入ってくる時期でもある。 (地域性や災害の規模によって外部からの支援は異なる)	<ul style="list-style-type: none">○避難所運営支援○自治体および関係機関の情報伝達○他団体などへの協力要請○物資配分、物資需要の把握○炊き出しなどの給食・給水活動○防疫対策、し尿処理○避難中の自警(防犯)活動○ボランティア活動のニーズの把握